

## 10) ステーションナリー関連製品の開発

江口佳孝、関戸正信

既存の食器生産工程を考慮し、産地製品の多様化に資することを目的とした食器外の製品展開を図るため、インテリア雑貨、ギフト、ノベルティ関連の 카테고리の中で製品開発を行った。主なステーションナリー製品とは、筆記用具と用紙(ノート、便箋、手帳)であるが、この市場に向けた製品展開を行うことで販路の拡充を図る。

### 1.はじめに

ライフスタイル、特に食習慣の変化に伴う和食器離れ、または食器離れの中で、食育の必要性を叫ばれているほど食文化も変化、多様化している。

家事労働のもっとも大きい部分である調理、食後の食器洗いなどを簡素化し、労働自体を減らしていく傾向が若年層世帯に多く視られ、これらの世帯を中心に家庭内で使用される食器のアイテム自体が減少し、偏っている傾向がある。

陶磁器産地として、現代の食習慣に合わせた食器製品の開発は、あまりの多様化、少量化に対応できない部分があり、食器以外にも活路を見出せる製品の開発が必要である。

ステーションナリー製品は筆記用具、用紙が主力のアイテムであるが、この市場の中で製品を展開することで、インテリア雑貨、ギフト、ノベルティといった関連の市場を望める。

陶磁器食器外製品として既存の食器生産ラインで製造できるステーションナリー関連製品のアイテムを構築し、これらのカテゴリーの中で製品展開を図る。

平成21年度は、産地の生産工程に支障をきたさないアイテムに絞りこみ、取り掛かりとしてペン皿の試作を行った。

### 2.デザインと試作開発

#### 2.1 ペン皿の製品開発の方向性

生活空間の中で、筆記用具はなくてはならないアイテムの一つであるが、散乱していて見苦しい、必要な時に見つからないなど多様な問題をもったアイテムである。

置き場所を確定させ、視覚的に空間の中に情緒感を持

たせることを目的とし、また産地での既存の生産ラインを活かせるアイテムとして磁器製のペン皿を提案した。

#### 2.2 ペン皿のデザイン・試作

筆記用具を用いる空間を想定し、CADのレンダリングによる形状の確認を経て、4アイテム2パターン計8種類を展開した。

図1に設計図・レンダリングの例を示し、図2から図5に試作品を示す。

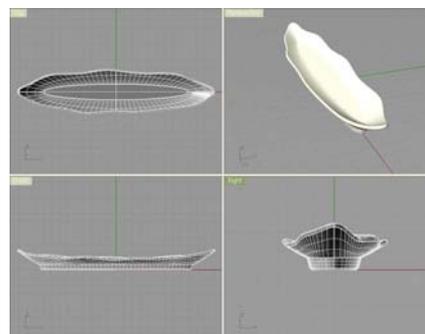


図1 設計図・レンダリング.



図2 ペン皿(小).

- ・ペン皿(小) 筆記用具1本用
- 有効面積 160 mm×20 mm
- 形状 長角、長円 (2パターン)



図3 ペン皿(中).

- ペン皿(中) 筆記用具 2~3 本用  
有効面積 160 mm×40 mm  
形状 長角、長円 (2パターン)

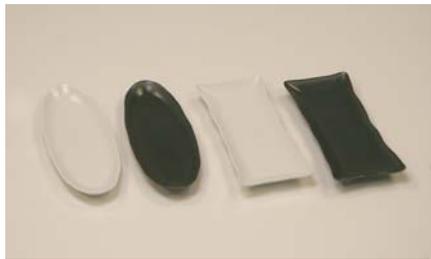


図4 ペン皿(大).

- ペン皿(大) 筆記用具 4~5 本用  
有効面積 160 mm×60 mm  
形状 長角、長円 (2パターン)



図5 ペン皿(長寸).

- ペン皿(長寸) 筆記用具 1~2 本用  
有効面積 180 mm×30 mm  
形状 長円 (2パターン)

図5の長寸ペン皿は、楕円形を基調とするため、CADによる設計後、型切削にNC切削機を用いた。

図6に型のレンダリングを示し、図7から図8に製品のイメージを示す。

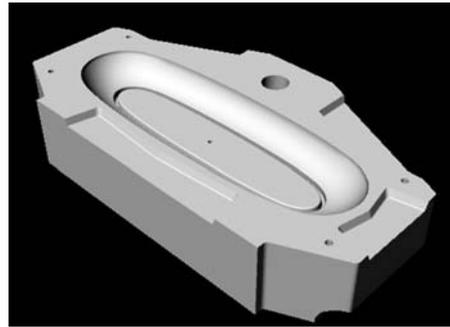


図6 長寸ペン皿型のレンダリング.



図7 製品イメージ.



図8 製品イメージ.

### 3.まとめ

産地の食器生産量、出荷量の減少は、現状の経済状況もさることながら、外食形態、家庭内の食習慣など消費者の消費形態の変化に起因するところが多く視られる。

このような中で、食器産業を主流とする陶磁器産地としては異分野にも活路を求める必要がある。

多岐に販路を拡充するためには、様々なカテゴリーを望めるアイテムの開発が急務であり、本研究では、ステーションナリー関連製品開発の取り組みを行った。

今後は、様々な求評を経て、関連製品の新たなアイテムの構築を行う。